

令和5年度 第2回神奈川県立生田高等学校学校運営協議会結果

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

審議会等名称	神奈川県立生田高等学校学校運営協議会
開催日時	令和5年10月27日(金) 15時30分～16時30分
開催場所	神奈川県立生田高等学校会議室
出席者 (役職名)	<p>学校運営協議会委員</p> <p>米山 福吉 (多摩区長沢地区自治会長) 原山 修 (多摩区長沢商店会長) 中村 隆英 (川崎市立生田中学校長) 齋野 保史 (川崎市立稗原小学校長) 脇本 健弘 (横浜国立大学教職大学院准教授) 飯沢 知久 (本校PTA会長) 布川 勝也 (本校校長)</p> <p>嶋田総太郎 (明治大学理工学部教務主任・電気電子生命学科・教授) ※所用のため欠席</p> <p>本校職員</p> <p>小原 正寛 (副校長) 杉山 崇裕 (教頭) 檜垣 桜子 (事務長) 根津 玲子 (総括教諭・学習支援Gリーダー) 橋本 未来 (総括教諭・進路支援Gリーダー) 石原 和彦 (総括教諭・生活支援Gリーダー) 宇都宮 亘 (総括教諭・生徒活動支援Gリーダー) 鯨吉 剛 (総括教諭・研究開発Gリーダー) 牧野 篤敬 (総括教諭・管理・運営Gリーダー)</p> <p>森安 翔 (記録 教諭・研究開発G) 川名 慶 (記録 教諭・研究開発G)</p>
次回開催予定日	令和6年3月
問合せ先	<p>担当者名 神奈川県立生田高等学校 研究開発G 鯨吉剛</p> <p>電話番号 044-977-3800</p> <p>FAX番号 044-976-9398</p>

審議(会議)経過	<p>議事(司会:教頭)</p> <p>1 開会(P T A会長)</p> <p>○学校運営協議会は外部からの知見をもとにアドバイスをもらえるチャンスなので、奇譚のないご意見をいただきたい。</p> <p>2 校長挨拶</p> <p>○お忙しい中、ご参加いただき感謝する。</p> <p>○学校運営協議会は、地域の方から学校経営へ参画していただく機会なので、ぜひ、積極的なご意見をいただきたい。</p> <p>○第1回学校運営協議会でお示した学校評価「1年間の目標」の中間報告を各グループより説明するので、評価をいただき、下半期に生かしたい。</p> <p>○年度単位の目標については、4年単位の学校教育計画に基づいて作成しており、現在のものは令和2～5年度のものである。今年度が最終年となるので、下半期の目標の達成が4年間の総括になる。</p> <p>○令和6～9年度の目標については、2～5年度の総括を踏まえて、計画をお諮りしたい。</p> <p>○(文化祭、修学旅行、学校生活等についての近況の報告)</p> <p>3 協議</p> <p>(1)学校評価「令和5年度目標」に係る中間評価について</p> <p>○資料に基づき、各グループより説明を行った。 (委員より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一台端末について、来年度から全学年で導入とのことだが、配備され始めているのは、2年前からか。小学校は3年目になってステップ3になり、より利活用を進めていこうというようになっているが、高校生はどのような活用をしているか。 →今の2年生から導入している。授業によって様々な使い方をしていて、ロイロノートアプリやGoogle classroomなどを使っている。また、モニターでは見にくいものなどを自分の端末で見られるようにして、並行して使用している。 ・P T A活動の継続について、現在は立候補制にして、その都度ボランティアをお願いして来てもらっているが、高校ではどうか。工夫やアイデアがあるか。 →保護者が積極的に参加してくれている。人数の偏りはあるが、足りなくて困ることはない。足りないときには「ささえ ai 隊」という形でボランティアも来ていただいている。入学時のアンケートをお願いして、入学式前に決まっていた。コロナ禍で集まれな
----------	---

いということもあったのでこの形で進めている。

(1) について、委員から了承を得た。

○ 委員の方から一言ずついただいた。

- ・にこにこハーモニーの開催について、今まではコロナ禍もあり、地域の絆が崩れているように感じる。自信を持って進めていただきたい。地域の絆を深めるいい機会になると思う。
- ・自転車の免許制は、他校にはない良い取組だと思うので、周りにもうまく伝わると良いと思う。にこにこハーモニーは長く続くと良い。
- ・理数探究について、子どもたちにはどのようにアナウンスしているか。中学生の声を反映したHPのアンケートはありがたい。

→理数探究の科目設置については、現在検討中であり、また、県への申請が必要なため、まだ伝えていない。しかし、理数教育の考え方を浸透させる必要があるので、理系の部分だけを重視するのではなく、全科目を通して科学的・論理的思考力を養うことを推進し、文系のテーマであっても、科学的・論理的に処理していくという概要の部分为学校説明会でも説明している。

- ・SNSの低年齢化が進んでおり、LINE上のトラブルなど、知らない人と関わる機会が増えている。動画なども簡単に作成できてしまうため、使い方については、保護者を含めて伝えている。また、ジェンダーについても色々な整理をしており、来年度から通学帽もすべて統一する。少数派の声も想定して、研修等も必要だと考えている。
- ・協働的な活動なども含めて、色々な授業形態が進んでいるようだ。探究については、このまま進めてほしい。授業アンケートについて説明があったが、ICTの活用が下がった理由は何があるか。

→今まではスマートフォンのみで完結していたものが、一人一台端末が導入されたことでパソコンとの両立の難しさがある。移行期なので、どのように状況に応じて活用していけるかが課題になる。また、半導体不足等の影響もあり、業者の関係で端末の納品が遅く、スマートフォンで授業を進めてしまっていた。今回は、パソコンを使っているという項目での調査だったため、活用率が下がってしまったのではないかと考えている。

- ・自転車の免許証の発行については、生田高校でしか実施していない取組なのか。また、発行したことによって、ルールへの意

識が高まったか。生田高校にしかない取組なのであれば、他校に紹介しても良い事例ではないか。

→本校独自の取組である。一番大事なのは、正しいルールを把握することであり、生徒の状況を見てみると、車両だという意識が低い。生徒もわかっているようで分かっていないので、特に1年生は入学時にルールの確認をテストで確認し、免許証を発行している。その結果、4月・5月の事故件数を圧倒的に減らすことができた。また、1学期に1年生は講話を、2年生は自転車点検をしており、試験は全員を対象に行っている。

・チャットGPTについて、ガイドラインのようなものはあるか。今後探究活動等で客観的なデータを集める際などに、うまく活用できれば良いのではないか。

→県からのガイドラインはあるが、本校独自のものはない。7月にマチコミのメールで、県の方針を通知している。一律に規制はしていない。

(校長より)

○現在、生徒への支援の一助として、全県立高校でサポートドックの取組を行っている。今回初めての取組だったが、今後、ブラッシュアップされていくと思う。

○理数教育推進については、全体計画の立案・推進を研究開発グループが、その中心となる「総合的な探究の時間」を進路支援グループが担当している。進路支援グループが担当するのは、かつて「総合的な学習の時間」の中で進路学習をしていたという経緯からだが、キャリア教育の理念は「高校3年生の時点での能力・適性で人生を決めない」ということであり、それが「能力伸長・生田メソッド」の理念でもある。その中心に「探究的学習」があるわけなので、そういう考え方に立って引き続き進路支援グループが担当することとしている。

○ICTの活用について、パソコンの利用率が上がらない要因の一つとして、机の小ささもある。タッチペンを使用して、ノート代わりにするなど、理数教育推進とセットで進めていきたい。

○にこにこハーモニーについては、働き方とのバランスもあるので、新しい時代に即したやり方を模索する必要があると思う。

○SSHの推進に向けては、今も理科の先生を中心に自然科学教室の取組を続けており、理系の生徒の参加率が高い。明治大学との連携については、生徒対象だけではなく、教員にも講義等をしていただいている。様々な資源があるので、引き続き、活用していく。

4 その他
特になし

	<p>5 閉会（PTA会長）</p> <p>子供の成長には学校・地域・家庭がバランスよく見守っていくことが大切である。うまく連携して支え合っていきたい。これからもご支援をお願いしたい。</p> <p>【部会】</p> <p>それぞれの部会で次のような内容について話し合った。</p> <p>（生徒と地域の連携部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自転車マナーについて ○にこにこハーモニーについて ○生田高校についてのご意見 <p>（理数教育・ICT利活用推進部会）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究活動の現状について（理数探究基礎/理数探究の設置に向けて）
--	---